

児童発達支援センターの状況について

事業所名：東京YWCAキッズガーデン

児童発達支援事業について	在籍者数	6 8 名（1日定員 3 0 名） 多機能型放デイ（土曜日のみ）在籍者数 5 5 名
	実施内容	<p>・応用行動分析（ABA）の手法をベースに、小集団の持つ力を活用して個別支援計画に基づく支援を行う。</p> <p>* 2～3歳児：小集団親子通園2グループ木・金（1/週） 10:15～12:20</p> <p>* 3～5歳児：小集団単独通園3グループ月～金（1～5/週） 10：00～14：00</p> <p>・バス送迎：区内全域。登園日数－1日利用可。</p> <p>・月のうち1週間はお弁当週。給食とお弁当の両面から食育。</p> <p>・母/父向けにABAによる療育内容方法を学ぶ参加プログラムあり。</p> <p>・きょうだい児支援プログラムあり。・ABAの視点からのペアトレプログラムあり。</p> <p>・療育時間前後（9：00～15：30）に母レスパイト、就労、きょうだい児の用件等のための預かり支援あり。</p>
	課題	<p>・待機児（2歳24人、3歳56人、4歳35人、5歳2人。1月末現在）への対応。重複待機多く、キャンセルもあるのでまずは見学して待機をお願いしている。（新年度に向け2月から待機継続伺い開始する。）家庭での過ごしへの助言等のための「子供発達支援室」（有料）につながる場合もある。</p> <p>・母の就労や並行通園先との考え方、または個別療育を行う他事業所の併用で、療育日数週1,2が急増しているため、療育の積み重ねができにくい。</p> <p>・個別療育のようなキャンセルによるスポット利用は小集団療育になじまないため、並行通園児が増えたと行事等による欠席が増え、収入減に直結、安定的な経営を圧迫する。</p>
保育所等訪問支援について	在籍者数	（受給者証による事業としては行っていない）
	実施内容	<p>・キッズガーデン在籍児を中心に、並行通園している幼稚園保育園との連携を重視。電話、訪問、来園等での情報共有や意見交換、助言を継続して行う。</p> <p>・療育の視点から幼稚園保育園の子ども支援について学ぶ統合保育研修を年4回実施。</p> <p>・放デイ、相談支援の関係で、放デイ訪問、放デイ事業所から幼児の療育見学もあり。</p>
	課題	<p>・並行通園児の増加で、各園の療育支援への理解が進んでいる実感ある一方、学齢児の療育的支援について、通常級、あいキッズとの連携が遅れている。</p> <p>・キッズガーデンを卒園したあと、福祉サービスを離れて手帳なく通常級に進級してから学校生活になじめず不登校になるケースへのかかわりの必要性和難しさ。</p>

障害児相談支援事業について	在籍者数	70名前後（計画書作成を継続している件数） + α
	実施内容	<ul style="list-style-type: none">・福祉サービス利用のための計画相談。（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、移動支援、居宅介護、ショートステイ等）・「サービス等利用計画書」作成、モニタリング、サービス変更等に伴う面談、訪問等。・関係機関との連携、関係者会議等。・サービス利用に至る前の一般相談。きょうだい児、家族丸ごとの相談支援。
	課題	<ul style="list-style-type: none">・計画相談の待機15名前後。すぐに対応できないため他を紹介することが多い。・通常級に進級した学齢児は法デイ利用の対象になりにくく、計画相談から離れることになるのに学校や放課後の生活に課題を抱え、一般相談で対応し続けるケースもある。かなりのエネルギーと時間を要するが、それに対する対価がなく受け止めの限界もある。